

平成21年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)
- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
- 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
- データ・資料等の利用 研究会
2. 課題番号または共同利用コード 2007-B-01
3. プロジェクト名, 研究課題, 集会名, または利用施設・装置・機器・データ等の名称
- 和文: フロンティア観測地球科学の推進
- 英文: Frontier observational earth science
4. 研究代表者所属・氏名 国立極地研究所・金尾 政紀
- (地震研究所担当教員名) 川勝 均, 竹内 希
5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む, 必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設, 装置, 機器, データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
金尾政紀	国立極地研究所・助教	企画・集会参加	年間	365	無
蓬田 清	北海道大学大学院理学研究科・教授	集会参加	5月19日/3月23日	2	有
山本 希	東北大学大学院理学研究科・助教	集会参加	5月19日/3月23日	2	無
大林政行	海洋研究開発機構・主任研究員	集会参加	5月19日/3月23日	2	無
田中 聡	海洋研究開発機構・主任研究員	集会参加	3月23日	1	無
大滝壽樹	産業技術総合研究所・研究員	集会参加	5月19日/3月23日	2	無
久家慶子	京都大学大学院理学研究科・准教授	集会参加	5月19日/3月23日	2	有
加藤 護	京都大学大学院人間環境学研究科・助教	集会参加	5月19日/3月23日	2	有
金嶋 聡	九州大学大学院理学研究院・教授	集会参加	3月23日	1	無
小林励司	鹿児島大学理学部・准教授	集会参加	5月19日	1	無
末次大輔	海洋研究開発機構・グループリーダー	集会参加	5月19日/3月23日	2	無
石原靖	海洋研究開発機構技術・研究員	集会参加	5月19日/3月23日	2	無
川勝 均	東京大学地震研究所・教授	企画・集会参加	年間	365	無
竹内 希	東京大学地震研究所・助教	企画・集会参加	年間	365	無
名和一成	産総研・研究員	集会参加	3月23日	1	無
志藤あずさ	海洋研究開発機構・研究員	集会参加	3月23日	1	無
宮川幸治	東京大学地震研究所・技官	集会参加	3月23日	1	無
塩原肇	東京大学地震研究所・准教授	集会参加	3月23日	1	無
杉岡裕子	海洋研究開発機構技術・研究員	集会参加	3月23日	1	無

宮澤理念	東京大学地震研究所・准教授	集会参加	3月23日	1	無
飯高隆	東京大学地震研究所・准教授	集会参加	3月23日	1	無
出原光暉	東京大学地震研究所・特任研究員	集会参加	3月23日	1	無
豊国源知	国立極地研究所・PD研究員	集会参加	3月23日	1	無
Helfrich G.	東京大学地震研究所・客員教授	集会参加	3月23日	1	無
歌田久司	東京大学地震研究所・教授	集会参加	3月23日	1	無
利根川貴志	東京大学地震研究所・特別研究員	集会参加	3月23日	1	無
入谷良平	東京大学地震研究所・大学院生	集会参加	3月23日	1	無
竹尾明子	東京大学地震研究所・大学院生	集会参加	3月23日	1	無
井出哲	東京大学大学院理学系研究科・准教授	集会参加	3月23日	1	無
一瀬建日	東京大学地震研究所・助教	集会参加	5月19日/3月23日	2	無

6. 研究内容（コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入）

キーワード： 広帯域地震計，フロンティア観測，NECESSArray

極地・深海底を含む観測研究のフロンティアで機動観測を推進する研究者などの意見を集約し、我が国に於ける“フロンティア観測地球科学”の推進体制を検討するため、前年度に引き続き、地球惑星連合大会で会合を開き（5月19日）、国内の状況把握並びに今後の進め方等について意見交換を行った。また昨年度本研究メンバーが中心となり、紀伊半島・四国東部における実験的な広帯域アレイ観測を実施したが、その成果を2009年5月の連合大会で2編、10月の地震学会で1編、AGU秋季大会で1編の講演として発表した。また論文としてGRLに公表した。2010年3月23日には、「フロンティア観測地球科学」ワークショップ（<http://gachon.eri.u-tokyo.ac.jp/~hitosi/Meetings/Frontier/>）を地震研究所にて開催し、NECESSArray観測の次の観測計画の提案、日本国内での観測支援体制のあり方などを議論した。本共同研究がきっかけとなり日本における「フロンティア地震観測」が広がる気運が高まってきている。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*1または2000～3000字の報告書）

(*1論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

- Very broadband analysis of a swarm of very low frequency earthquakes and tremors beneath Kii Peninsula, SW Japan, Takeo et al. (2010), Geophys. Res. Lett., 37, L06311, doi:10.1029/2010GL042586. (謝辞有；6ポイント)
- Deep very low frequency seismic activity in low frequency tremor zone: Monitoring by broadband seismic array analysis in Western Japan, Ishihara et al., AGU fall meeting, 2009. (謝辞無；2ポイント)
- 南海道NECESSArray広帯域地震観測による紀伊半島下の低周波微動と超低周波地震の時空分布, 竹尾他, JpGU 2009. (謝辞無；2ポイント)
- 南海道NECESSArrayによる四国東部における深部非火山性微動・超低周波地震の観測, 石原他, JpGU 2009. (謝辞無；2ポイント)
- 深部低周波微動発生域での広帯域アレイ地震観測：低周波微動に伴うイベントの活動度, 石原靖・須田直樹・中田令子・久保篤規・川谷和夫・川勝均, 地震学会秋季大会, 2009. (謝辞無；2ポイント)